



図鑑を見ながらこだわって作ったよ こども館で魚釣りのおもちゃ作り

8月19日㊦に、さくらこども館の「小学生クラブ」で、折り紙を使って魚釣りのおもちゃ作りに挑戦しました。子どもたちは、講師の先生に教わりながら魚を折ったり、紙を細かく切り抜いてカジキや海藻を作ったりと、個性豊かな作品を器用に作り上げていました。こども館では、毎月小学生向けの楽しいイベントを開催しています。詳しくは、9ページをご確認ください。



地域の皆さんから温かい贈り物 2学期を頑張る東谷っ子に黑板アート

2学期初日の9月1日㊦に、地域の皆さんからの提案で、東谷小学校の子どもたちに黑板アートが贈られました。子どもたちは教室に入ると「うわー!」「すごい!」と歓声を上げ、感動した様子で作品を眺めていました。「消すのが勿体ない」と嘆く声や「2学期も頑張れる」といった声上がるなど、地域の皆さんの温かい気持ちが子どもたちを元気づけていました。



画：(上から)日本画家 伊東 正次 さん、佐伯 美穂さん、人形作家 林 智美さん



お盆を彩る夏のにぎわい 西谷納涼盆踊り大会を開催

8月14日㊦に、西谷小学校で納涼盆踊り大会が開催されました。子どもたちは、雨の中、西谷小学校 PTA、OB による夜店での買い物や、体育館での射的や輪投げ、盆踊りを楽しみました。また、西谷小学校の先生、卒業生、地域の皆さんによるバンド演奏では、6年生が飛び入りでダンスを披露し、会場を大いに盛り上げました。地域の交流が深まる楽しい夏のひとときとなりました。



新たな3つの部活動が躍動を始める 多目的ホールとアーチェリー場をお披露目

8月30日㊦に、県立東温高等学校で新しく整備された練習施設の完成披露会が開催され、同校に新設されたレスリング、アーチェリー、なぎなた部が各競技を紹介しました。多目的ホール(レスリング場)では、県内出身で全日本選手権を制した曾我部京太郎選手(写真右左)と弟の凜太郎選手(同右)が試合を披露。2人は、「素晴らしい練習場所なので、ここから世界で活躍する選手が出てきて欲しい」と大いに期待していました。





初期消火の鍵は地域が握る 住民の手で火災から河之内を守る

8月12日㊤に、惣河内神社と隣接する金毘羅寺で、地域住民による消火・救護訓練が行われました。地震で地域が孤立する中で、火災が発生するという事態を想定し、消火訓練等を実施しました。東谷小学校少年消防クラブの南條匠海さん（写真左上）は「去年より上手くできました。火災が起きても、すぐ対応できるようになったと思います」と話していました。



伝える仕事を楽しく体験しました ジョブチャレンジで広報取材に挑戦

9月8日㊤に、重信、川内中学校の生徒8人が職場体験で市役所を訪れ、広報取材に挑戦しました。生徒たちは歴史民俗資料館で学芸員の説明を受けながら、地域の歴史や展示資料を取材し、初めて手にするカメラで撮影しました。取材後は、読み手の目を引くタイトルを相談し合って考え、記事を作成。自分たちで作り上げた記事を手にし、笑顔を見せていました。



響け陶音。癒しの音色を届ける オカリナ交流会で復興を願う

8月11日㊤に、クールス・モールで、とうおんオカリナ研究会が主催するオカリナ交流会が開催され、県外から招いた2組の演奏家が癒しの音色を響かせ、最後に、阪神・淡路大震災の復興を願って作られた曲「しあわせ運べるように」をオカリナ愛好家の参加者とともに演奏しました。また、会場では令和8年熊本地震の義援金を募集。多くの人が寄附をし、一刻も早い復興を願っていました。



災害時のあらゆるニーズに対応できるように 防災力アップに女性の視点を

8月22日㊤に、市中央公民館で、きらり東温が主催する「災害時、私たちにできること～防災に女性の視点を～」が開催されました。女性と防災の会代表の小國恵子さんを講師に迎え、日頃からの備えや心構え、女性がリーダーとなることの重要性を学んだほか、発災直後の避難所のレイアウトを考えるシミュレーション訓練を実践し、防災に女性の視点が反映されることの大切さを学びました。



復興を支援し、学びを持ち帰る 熊本地震の被災地に職員を派遣

9月12日㊤から18日㊤まで、熊本県氷川町に、危機管理課の職員2人（写真左から2、3番目）を派遣しました。派遣職員は、「まず第一に被災者の皆さんが1日でも早く日常を取り戻せるよう尽力するとともに、今回の経験を東温市の防災に繋がられるよう学びを深めたいと思います」と話し、7日間、被災地で住宅被害状況の調査などに従事しました。